

詩人と作曲家

合唱曲「春に」が生まれた背景には…。

谷川 人間の感情は常に矛盾したものを含んでいるから、それを書きたいと思ったのははっきり覚えています。当時、歌詞に限らず、詩の中に相矛盾する感情が入っていることがあんまりなかったんです。明るい歌は明るい歌詞ばかり。

木下 「どきん」という詩集をなにげなくめくっていて「春に」に出会い、「ああ、探していたのはこれだ!」と思いました。

谷川 合唱曲になったあと、なんで悲しいのにうれしいのか、怒っているのか。そういう質問を何度ももらいました。質問は4~5年たつとなくなりましたから、やっぱり音楽の力でみんな納得できちゃったんですね、きっと。

木下 悲しみでもある、怒りでもある、その両方の感情がせめぎ合いながら徐々に高

まっていく感じがとても音楽的で、自然に気持ちよく作曲した記憶があります。

谷川 だいたい詩というのは活字で本の上に寝ているわけです。活字が立ち上がってメロディーとかハーモニーになって空にのぼっていくみたいなイメージがあるのね。広がるんですよね。

木下 「春に」は初めて中学生に向けて書いた曲でした。誰にも分かりやすく、しかも深い歌を書いてほしいという、とても難しい依頼だったんですよ。ですからこの詩に出会えて幸運でした。

谷川 「春に」はみんな最初からすごく気に入っていたと思いますが、僕も聴いてすごく好きになって。ほんとうにどきっとしました。昔書いた詩が曲になって、それを若い人たちがずっと歌ってくれるのはとてもうれしいことです。



たにかわしゅん たらう
谷川俊太郎

詩人。1952年「二十億光年の孤独」でデビュー。詩作の他、絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広く活躍している。受賞・著作多数。



きのしたまき こ
木下牧子

作曲家。オペラ、管弦楽、吹奏楽、室内楽、器楽、声楽など幅広く作品を発表する。混声合唱組曲「方舟」をはじめ、声楽作品は特に人気が高い。

